

令和5年12月21日

さいたま市長 清水 勇人 様

さいたま市社会福祉審議会
児童福祉専門分科会
(地方版子ども・子育て会議)
会長 山中 冴子

さいたま市子ども・子育て支援事業計画「第2期さいたま子ども・青少年
のびのび希望（ゆめ）プラン」令和4年度進捗状況について（具申）

令和5年度さいたま市社会福祉審議会児童福祉専門分科会（地方版子ども・
子育て会議）において、標記計画における令和4年度進捗状況及び評価につい
て審議し、本分科会の意見を別紙のとおり具申いたしますので、ご配慮くださ
い。

「第2期 さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」
令和4年度進捗状況及び評価について

令和4年度の事業評価については、全153事業中、「A：達成」、「B：概ね達成」と評価した事業が、147事業（96.1%）となっており、多くの事業が順調に進められています。

中でも、待機児童対策においては、令和5年4月時点の保育所等利用待機児童数は0人となり、2年連続で待機児童ゼロを維持することができており、これまでの保育所等整備・拡充の結果が見受けられます。一方で、放課後児童クラブの待機児童数は前年度より7人減ったものの333人となっており、依然として待機児童の解消には至っておらず、市民の期待に十分に答えられていない側面も見られます。

長きにわたり人々の生活に多大な影響を及ぼしてきた新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、ポストコロナに向けた新たな一步を踏み出しました。コロナ禍を経て子ども・青少年を取り巻く環境が大きく変化する中、子ども・青少年が抱える問題も多岐にわたっています。環境の変化へ迅速に対応するとともに、各事業の質の充実や目標設定のあり方について追及していく必要があると思料します。

当分科会において委員から出された様々な意見や質問の中には、次期計画の策定にあたっての課題と考えられるものもありましたので、市において十分に検討されることを望みます。

今後も、多様化する子ども・子育て支援に関するニーズに柔軟かつ速やかに対応するとともに、「第2期さいたま子ども・青少年のびのび希望（ゆめ）プラン」に沿った施策が着実に遂行されることを求めます。

<委員からの意見等>

- ・幼稚園・認定こども園、保育所等に係る量の見込み及び確保方策の数値について、社会情勢等を踏まえて、より実態に即したものにできるよう希望します。また、量の確保と併せて質の確保についても重視されることを希望します。
- ・児童虐待防止の取り組みが社会全体で強く意識されているものであることを認識し、市の状況に応じたより良い施策になるよう検討をお願いします。また、必要に応じて開催されるカンファレンスの開催件数を目標とすることに無理があるとも考えられるため、プランの見直しの際には指標の妥当性も含め柔

軟に考えていく必要があると考えます。

- 子育てWEB事業について、目標値と実績値が乖離しているため、目標値の妥当性について検討するとともに、中身の充実を図ってください。
- ヤングケアラー訪問支援事業について、未だ見つかっていない潜在的なヤングケアラーがいることが懸念されるため、積極的にニーズを掘り起こすことを期待します。